事例No.	2765
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	大和田　順子

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

自然共生型農業・地域の価値の可視化及び世界農業遺産
「大崎耕土」におけるSDGs の展開

出典

令和３年度ふるさとづくり大賞事例集

chapter
22



ふるさとづくり大賞 ―個人表彰―

自然共生型農業・地域の価値の可視化及び世界農業遺産「大崎耕土」における SDGs の展開

大和田（おおわだ）　順子（じゅんこ）



取組の概要

大崎市は、ラムサール条約湿地「蕪栗沼・周辺水田[1]」において、湿地、農業（ふゆみずたんぼ[2]）、生物多様性など、自然資本の活用を通じた独自の地域づくりに取り組んできた。2011 年以降、震災復興に際し、大崎市はこれらの取り組みを地域価値として確立するコンソーシアムを設置し、大和田氏は、そのプロジェクトマネージャーとして参画した。大和田氏は、環境・社会・経済を統合する観点を重視し、各種プロジェクトを主導。2017 年の国連食糧農業機関「世界農業遺産（GIAHS[3]）」認定後は、SDGs との関連を明らかにし、取組を行っている。

[1] 蕪栗沼・周辺水田：2005 年ラムサール条約に登録された湿地。湖沼周辺の水田を広く含み、世界で初めて登録湿地名に「水田」を冠した湿地。周辺水田では渡り鳥と農業の共生を目指す「ふゆみずたんぼ」が取り組まれている。
[2] ふゆみずたんぼ：冬期間も水田に水を湛え続け、マガンを始めとする冬鳥の越冬利用を推進し、その後は農薬や化学肥料を使用しない米づくりに移行させることで、渡り鳥と農家の共生を目指すブランド米「ふゆみずたんぼ米」として販売、取組農業者の所得向上につなげる取り組み。
[3] GIAHS：Globally Important Agricultural Heritage System の略。国際連合食糧農業機関（FAO）が、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域を、認定するプログラム。

取組のプロセス

2010年
- 地域のユニークな取り組みが可視化されていない
- 震災の発生、原発風評被害

きっかけ　著書『アグリ・コミュニティビジネス』の取材で大崎市を訪れ蕪栗沼の魅力および抱える課題を知る

2011年～
- 総務省事業の活用

地域資源の価値を可視化するための体制づくり

震災復興「蕪栗沼ふゆみずたんぼプロジェクト」開始。
- 農家、NPO、市、JA 等によるコンソーシアムを組成
- 取り組みを可視化するコンテンツづくり
- プロモーション
- エコツーリズム商品開発


ふゆみずたんぼと水鳥



絵本

2012年～
- 商品開発による価値の可視化（生業の復興に向けた販路拡大）
- ふゆみずたんぼ農法の技術移転要望への対応

知恵・技術の共有・活用

- ふゆみずたんぼ米の商品化（デザイン・プロモーションほか）
- 津波被災水田（南三陸町など）の塩害対策にふゆみずたんぼ農法の技術を共有



2015年～
- 「ふゆみずたんぼ」や自然共生型農業は市内の一部地域での特殊な事例という認識
- 各地域の資源の持つ価値の可視化が必要
- 世界農業遺産申請

プロジェクトの成果を全域へ

- 特に農業に関する地域資源を再調査
- 周辺４町と共に、世界農業遺産（GIAHS）に申請
  ※大和田氏は 2014 年「世界農業遺産専門家会議委員」（農水省）に就任したため、直接の接触は行えなくなったが、引き続き宮城大学大学院事業構想学研究科にて調査研究を継続。

2017年～

世界農業遺産の認定、可視化の拡大と活用

- 世界農業遺産認定
- GIAHS ツーリズムの構築
- SDGs への取組開始



2021年～

GIAHS × SDGs による地域づくり

- 農泊の推進（農泊全国ネットワークづくり）
- SDGs 学習プログラムの普及
  ※大和田氏は４月より同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコース教授に就任。以降も GIAHS に関する調査研究・活性化支援を継続。



今後の展望
- **ゆとり滞在型ツーリズムとして農泊を推進**
- **市民・企業等による屋敷林「居久根」の保全**
- **グリーン・インフラの活用を核として「SDGs 未来都市」認定と構想支援**

DATA

事例名：『蕪栗沼・ふゆみずたんぼ、世界農業遺産「大崎耕土」』
　　大和田　順子
所在地：宮城県大崎市古川七日町 1-1 大崎市役所内
連絡先：TEL　0229-23-2281
　　FAX 0229-23-7578
　　E-mail osaki-giahs@city.osaki.miyagi.jp
ホームページ：https://osakikoudo.jp/

大崎耕土 世界農業遺産 OSAKI KOUDO

